

●●●平成30年7月～9月期 栃木県中小企業景況調査(157回)●●●

【栃木県DI指数天気図】

**今期(県内全体)の業況**
































**DI値**  
**-16.9**  
※全国 -15.6

point!

県内全体の業況(DI値)は、前期比+0.4ポイントの「-16.9ポイント」となった。全国との差も-1.3ポイントとなり、建設業・サービス業の改善が大きく影響した。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
DI値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	DI値	-4.9	-6.6	44.4	3.4	-13.3	9.1
業況：今期は小幅な悪化、来期は大幅な改善が見込まれる (DI値 前期比-4.3ポイント)							
建設業							
	DI値	-15.0	-10.0	40.0	-25.0	-20.0	-20.8
業況：今期は改善となったが、来期は小幅な悪化の見通し (DI値 前期比+7.2ポイント)							
小売業							
	DI値	-22.0	-32.5	45.0	-22.5	-25.0	-11.3
業況：今期は横這い、来期は大幅な改善を予想 (DI値 前期比-0.3ポイント)							
サービス業							
	DI値	-23.1	-10.0	30.0	-21.7	-16.7	-19.8
業況：今期は小幅な改善、来期も継続して改善の見通し (DI値 前期比+2.3ポイント)							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (19.5%)
- 第2位： 製品ニーズの変化への対応 (15.6%)
- 第3位： 生産設備の不足・老朽化 (14.3%)

小売業

- 第1位： 大・中型店の進出による競争の激化 (19.0%)
- 需要の停滞 (19.0%)
- 消費者ニーズの変化への対応 (19.0%)

建設業

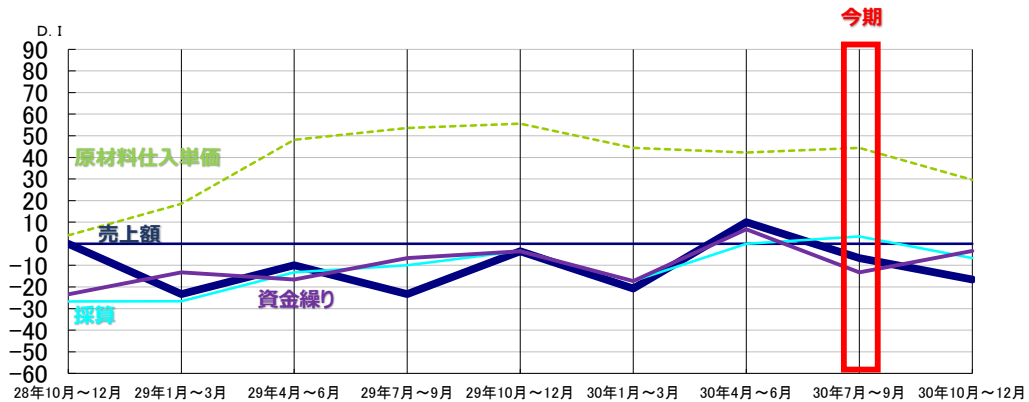
- 第1位： 従業員の確保難 (25.7%)
- 第2位： 請負単価の低下・上昇難 (14.3%)
- 第3位： 官公需要の停滞 (11.4%)

サービス業

- 第1位： 需要の停滞 (20.2%)
- 第2位： 利用者ニーズの変化への対応 (15.7%)
- 第3位： 従業員の確保難 (13.5%)

製造業

「売上額・資金繰りが悪化、来期は資金繰りに改善の見通し」

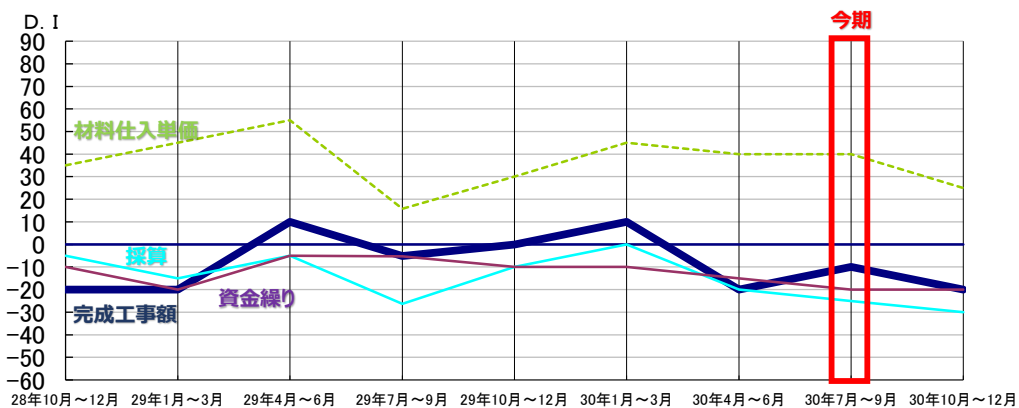


今期は、前期に比べて「売上額」が-16.6ポイント(10.0→-6.6)、「資金繰り」が-20.0ポイント(6.7→-13.3)の悪化。「採算」が+3.4ポイント(0.0→3.4)の改善となった。来期において、「売上額」「採算」は悪化、「資金繰り」においては改善が見込まれる。

「原材料仕入単価」は2.1ポイント(42.3→44.4)増加したが、来期は-14.8ポイント(44.4→29.6)の減少が見込まれる。

建設業

「売上額(完成工事額)が改善、来期は材料仕入単価が減少見込み」

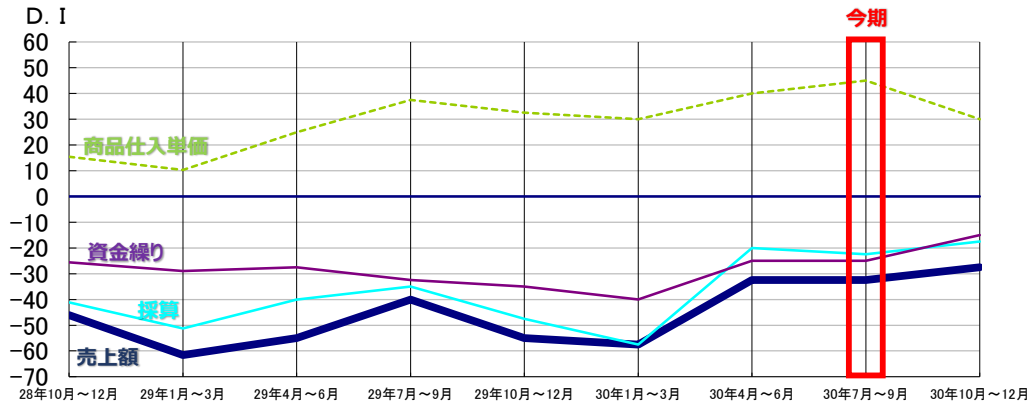


「売上額(完成工事額)」は前期比+10.0ポイント(-20.0→-10.0)改善。「採算」は-5.0ポイント(-20.0→-25.0)、「資金繰り」は-5.0(-15.0→-20.0)の悪化となった。来期においては「売上額」、「採算」で悪化の見通しとなっている。

「材料仕入単価」については今期横這い、来期は-15.0ポイントの減少が見込まれる。

## 小売業

### 「売上額・資金繰りは横這い。来期の売上額は小幅な改善」



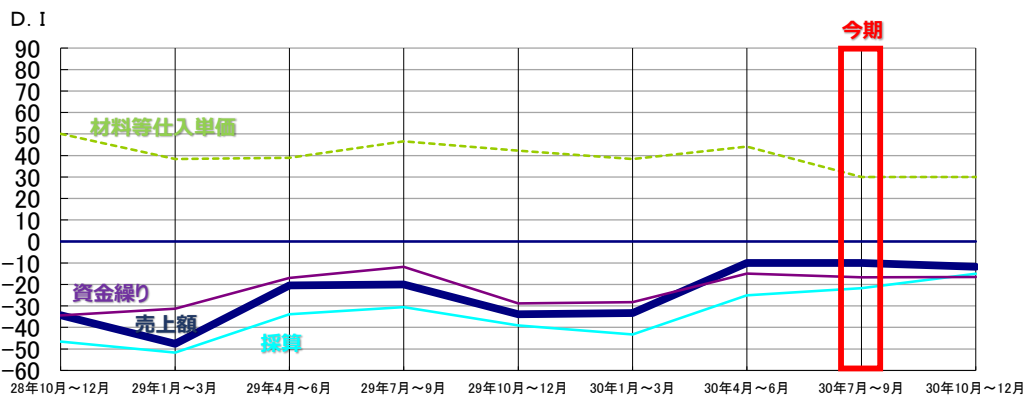
「売上額」、「資金繰り」は前期から横這い。「商品仕入単価」は+5.0ポイント(40.0→45.0)の上昇、「採算」は-2.5ポイント(-20.0→-22.5)の悪化となった。

来期は「売上額」で+5.0ポイント(-32.5→-27.5)、「採算」は+5.0ポイント(-22.5→-17.5)、「資金繰り」は+10.0ポイント(-25.0→-15.0)の改善となる見通しである。

「商品仕入単価」は来期-15.0ポイント(45.0→30.0)の減少を見込んでいる。

## サービス業

### 「売上額が横這い、採算・資金繰りは来期は改善見込み」



今期は「売上額」が前期から横這い、「資金繰り」が-1.7ポイント(-15.0→-16.7)、「材料等仕入単価」が-14.1ポイント(44.1→30.0)の減少、「採算」は+3.3ポイント(-25.0→-21.7)の改善となった。

来期は「売上額」が減少、「採算」「資金繰り」が改善、「材料等仕入単価」は横這いとなる見通し。

## 調査要領

### ○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

### ○調査対象地区（栃木県商工会地区）

にのみや・小山市美田・那須町・上三川町・都賀町  
佐野市あそ・間々田・湯津上・黒羽・塩谷町

### ○調査時点

平成30年9月1日

### ○調査対象期間

平成30年7月～9月期の実績及び、平成30年10月～12月期の見通しについて調査

### ○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

### ○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

### ※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。